

口腔がん治療後の困ったを解消

特殊な入れ歯で話して食べて飲めるまでをサポートします！

講演要旨



日本大学歯学部 歯科補綴学第Ⅱ講座 診療准教授 **大山 哲生**

口内炎がなかなか治らなくて、“がんかも？”と不安になったことがある方は多いと思います。近年は2人に1人はがんに罹患し、口腔内のがんは全体の1%程度で年間8,000人程度と言われています。しかし、残念ながら目に見える部位の粘膜に症状が出現することが多いのにも関わらず、進行した状態で発見されることも多いのが現状です。早めの歯科への受診により早期発見早期治療が、がんからの生還の為には重要な言うまでもありません。ただ、早期に治療したとしても外科手術等のがん治療で、話す・食べる・飲む等の機能が損なわれ、生活の質が低下してしまうことがあります。例えば、上顎^{あご}の手術により生命の危機は回

避できたとしても、口と鼻が腫瘍切除によって繋がってしまったり、食べたり飲んだり話したりがかなり困難になってしまいます。せっかく辛い思いをして手術に臨んで命を繋いだとしても、その後の生活が楽しめないとしたら非常に残念です。そのような場合には、話して食べて飲むことをサポートする、口腔内に開いた孔を塞ぐ装置付きの特殊な入れ歯治療が非常に効果的です。本フォーラムは、がん治療後の困ったを解消する特殊な入れ歯をご紹介しますことで、皆様明るく楽しかった昔の生活を取り戻すための受診のきっかけとなれば幸いと思っております。

略歴

- 1991年 日本大学歯学部 卒業
- 1995年 日本大学大学院歯学研究科歯科臨床系 修了
- 1999年 日本大学 助手 (歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座)
- 2007年 日本大学 専任講師 (歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座)
- 2009年 Visiting Professor UCLA School of Dentistry
Maxillofacial Prosthetics Residency Program
- 2011年 日本大学歯学部 診療准教授 (歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座)
現在に至る

専門医・指導医・学会活動

- 日本補綴歯科学会 代議員、指導医、専門医
- 日本顎顔面補綴学会 理事、代議員、認定医
- 日本磁気歯科学会 理事、認定医